

第3章

Chapter 3

聖火リレー



オリンピック聖火

オリンピックのシンボルとして煌々と燃える聖火。県では熟考したうえで聖火リレーのルートとランナーを決定したが、コロナ禍で見直しを余儀なくされた

第1項

オリンピック聖火リレーに向けた取組がスタート

心と心をつなげる それが聖火リレー

「平和」と「希望」のメッセージが込められた聖火リレーは、オリンピックのシンボル。ランナーからランナーへとつながってきた火が聖火台へと灯され、高らかに燃え上がる姿には、アスリートのみならず、見る人の心を打つ、不思議な力が宿っている。

1964年の東京大会では 4ルートから東京をめざした

1964年の東京大会での聖火リレーは、全国を回るために4つのコースに分かれて行われた。

＜第1コース＞ 9月9日(水)～10月9日(金)
鹿児島 → 熊本 → 長崎 → 佐賀 → 福岡 → 山口 → 広島 → 島根 → 鳥取 → 兵庫 → 京都 → 福井 → 石川 → 富山 → 新潟 → 長野 → 山梨 → **神奈川** → 東京

＜第2コース＞ 9月9日(水)～10月8日(木)
宮崎 → 大分 → 愛媛 → 高知 → 徳島 → 香川 → 岡山 → 兵庫 → 大阪 → 和歌山 → 奈良 → 京都 → 滋賀 → 三重 → 岐阜 → 愛知 → 静岡 → **神奈川** → 東京

＜第3コース＞ 9月9日(水)～10月7日(水)
北海道 → 青森 → 秋田 → 山形 → 新潟 → 群馬 → 埼玉 → 東京

＜第4コース＞ 9月9日(水)～10月7日(水)
北海道 → 青森 → 岩手 → 宮城 → 福島 → 栃木 → 茨城 → 千葉 → 東京

神奈川県は、第1コースと第2コースに組み込ま

れており、聖火を持って走る正走者86人、正走者の補助として走る副走者172人、オリンピックの小旗を持って走る随走者1,720人の総勢1,978人のランナーが県内を走り抜けた。そして、全国を巡った4つの火は皇居前で合流し、メイン会場となる国立競技場へと運ばれていった。

国内では10万人以上がランナーとして参加し、国民一丸となってオリンピックを盛り上げた。

東京2020大会のコンセプトは Hope Lights Our Way

2018年4月、組織委員会から東京2020オリンピック聖火リレーのコンセプト「Hope Lights Our Way(=希望の道を、つなごう)」が発表された。お互いに支え合い、認め合い、高め合うという、オリンピックにふさわしいメッセージがこの言葉に込められていた。

また、復興オリンピック・パラリンピックの観点から、オリンピック聖火リレーの開催に先立ち、ギリシャで採火した聖火は「復興の火」として、被災3県(岩手、宮城、福島)で順次展示され、福島県から聖火リレーがスタートすることとなった。さらに、ルートやランナー選定の基本的な考え方、組織委員会から各都道府県への協力要請事項などが示された。

県は、こうした内容に基づき、本県の聖火リレーを組織委員会と協力して進めるため、知事、県警本部長、横浜市消防局長(県の代表消防機関)をメンバーとする「東京2020オリンピック聖火リレー神奈川県実行委員会」(以下、「県実行委員会」という。)を2018年6月6日に設置し、様々な検討を開始した。

第2項 ルートの選定

全国47都道府県を 121日かけてつなぐ

2018年4月に組織委員会が示した東京2020オリンピック聖火リレーの基本的な考え方は、まず、聖火リレーの日数については、「全国を丁寧に戻るために、100日を上回る日数を設定」、「東日本大震災被災3県(岩手、宮城、福島)については、日数の配慮をし、各県3日を設定」、「東京都については、開催都市としての位置付けを十分考慮し、15日を設定」、「複数種目を実施する4県(埼玉、千葉、神奈川、静岡)については、日数の配慮をし、各県3日を設定」、「その他の39道府県については、長野大会各1日上回る、各道府県2日を確保」という内容であった。

また、ルートは原則として、「日本全国47都道府県を回り、できるだけ多くの人々が見に行くことができるルート」、「安全かつ確実に聖火リレーが実施できる場所」とし、そのうえで、「地域が国内外に誇る場所や地域の新たな一面を気付かせる場所」、「聖火が通ることによって人々に新たな希望をもたらすことができる場所」とする内容が示された。

聖火リレーは、ランナーのみならず、沿道で見守る人、ランナーをサポートする人なども、オリンピックに参加をすることができるイベントである。県では、組織委員会から示された考え方の下、慎重に議論を重ね、3日間にわたる聖火リレールートを選定していくこととなった。

より多くの市町村を回るには どうすればいいのか?

ルート選定に当たっては、県実行委員会内に2018年7月に設置した「ルート選定部会」を中心に検討を進めた。選定に当たっての考え方として、「大会への期待感を最大限に高められる場所」、「県の魅力を最大限に発信できる場所」、「県内で行われる4競技への関心を高める場所」、「多くの人が見られる場所」といった大きく4つの視点を定めて検討を進める中で、

まず、会場所在自治体の横浜市(サッカー、野球・ソフトボール)、相模原市(自転車競技ロードレース)、藤沢市(セーリング)の3市を各日のセレブレーション会場(リレーでつながれた聖火をその日の最後に聖火皿に点火するセレモニーを行う会場)とする方向で調整した。

また、事前に全市町村にアンケートを実施し、各地域の見どころや魅力的なルートを挙げてもらい、選定の参考とした。

県としては、県民の方々にオリンピックをより身近に感じてもらうため、可能な限り多くの市町村をルートに入れたと考えていた。しかし、ルート選定に当たっては様々な制約があった。まず前提として、1964年の東京大会とは異なり、聖火は分火せず全国を一つの火が一つのルートでつながれていくこととされていた。

聖火リレーの1日の流れを見ると、その日の最初のランナーがトーチに点火するセレモニーである「出発式」から始まる。ランナーは、十数台規模の車両と隊列を組んで一緒に走り、次のランナーに聖火を引き継ぐ。これが連続する区間を「走者区間」といい、それ以外は聖火を積んだ車列が移動する。そして、その日の最終ランナーの到着地では、「セレブレーション」と呼ばれるイベントが行われ、聖火がトーチから聖火皿に移されて終了となる。1日の稼働時間は、原則午前10時から午後7時とされていた。

一つの「走者区間」は、2～3km程度、1日6区間程度とされていたことから、3日間で18区間、実際にランナーが走ることができる距離は、1日当たり16km、3日間で48km程度。ランナーの人数は、一つの「走者区間」を13～14人で走ることとされていたため、1日当たり80人、3日間で240人程度となる。

このように、1日の走行距離と走者区間数、走行時間、ランナー数が限られるとともに、「出発式」や「セレブレーション」を行う時間の確保も必要といった条件に加え、長さが1kmを超える隊列が進むためには、県内の交通事情を考慮して、一つの「走者



2021年3月31日発表の聖火リレールート

DAY
1

【1日目・6月28日(月曜日)】(総走行距離:約19km、総走行予定人数:94人)

番号	市町名	出発		到着	
		予定地	予定時間	予定地	予定時間
①	箱根町	箱根駅伝往路ゴール地点付近	10:10	芦ノ湖遊覧船乗り場付近	10:36
②	伊勢原市	大山 阿夫利神社	11:00	伊勢原市営大山第二駐車場	11:20
③	小田原市	梅林駐車場西	11:45	浜町交差点手前	12:11
④	大磯町	オリンピック セーリング村予定地前	14:05	大磯町役場前	14:50
⑤	平塚市 茅ヶ崎市	平塚駅南口周辺	15:40	茅ヶ崎公園野球場付近	16:56
⑥	藤沢市	江の島北緑地広場	17:10	西浜歩道橋付近	17:29
⑦		湘南高校前信号	17:50	辻堂神台公園	18:35

※大山 阿夫利神社付近では、ケーブルカーを使用したリレーを予定

DAY
2

【2日目・6月29日(火曜日)】(総走行距離:約14km、総走行予定人数:87人)

番号	市町名	出発		到着	
		予定地	予定時間	予定地	予定時間
⑧	三浦市	三崎フィッシャリーナ・ウォーフ(うらり)	9:50	北條湾東	10:19
⑨	横須賀市	NTT横須賀研究開発センタ正面	11:15	NTT横須賀研究開発センタ正面	11:25
⑩		うみかぜ公園	11:45	横須賀芸術劇場付近	12:15
⑪	鎌倉市	由比ガ浜	13:00	鶴岡八幡宮 大石段上	13:50
⑫	海老名市	大島記念公園前交差点付近	14:50	海老名中央公園	15:18
⑬	厚木市	あゆみ橋東交差点	16:15	厚木年金事務所西側付近	16:46
⑭	相模原市	横山公園第1駐車場付近	18:05	相模原市役所前	18:34
⑮		リニア神奈川駅予定地付近	19:20	橋本公園	19:44

DAY
3

【3日目・6月30日(水曜日)】(総走行距離:約20km、総走行予定人数:109人)

番号	市町名	出発		到着	
		予定地	予定時間	予定地	予定時間
⑯	川崎市	等々力陸上競技場	10:10	武蔵中原駅手前	10:52
⑰	横浜市	横浜国際総合競技場前	12:10	新矢之根交差点付近	12:26
⑱		三ツ沢公園陸上競技場横	14:10	横浜西口KNビル裏	15:03
⑲		金港町交差点付近	16:00	横浜市庁舎付近	16:51
⑳		横浜市庁舎前	17:00	万国橋交差点	17:24
㉑		万国橋北	17:45	トヨタレンタカー元町石川町店前	18:35
㉒		トヨタレンタカー元町石川町店前	18:35	マリントワー前バス停	19:11
㉓		マリントワー前バス停	19:11	横浜赤レンガ倉庫	19:48

※横浜市庁舎前付近では、メガサップを使用したリレーを予定

各セレモニー会場での実施内容検討状況(2021年6月時点)

		セレモニー会場	予定していた主なプログラム
1日目	出発式	箱根町 箱根駅伝往路ゴール地点付近	●地元団体による伝統芸能や踊りの披露 ●地元中学生による吹奏楽演奏 ●海賊船汽笛でランナー出発を応援
	ミニセレブレーション	藤沢市 江の島北緑地広場	●地元団体や地域の方々が江の島大橋で「東京五輪音頭」を披露してランナーを応援
	セレブレーション	藤沢市 辻堂神台公園	●地元団体による太鼓音楽演奏 ●スポンサープログラム
2日目	出発式	三浦市 三崎フィッシャリーナ・ウォーフ(うらり)	●地元神社による獅子舞・祭囃子演奏
	ミニセレブレーション	海老名市 海老名中央公園	●地元中学生による吹奏楽演奏
	セレブレーション	相模原市 橋本公園	●プロチームによるダブルダッチ披露 ●スポンサープログラム
3日目	出発式	川崎市 等々力陸上競技場	●川崎市消防音楽隊・カラーガード隊による演奏・演舞 ●ヒップホップパフォーマンスグループによる地元中高生参加型のヒップホップラジオ体操実施 ※出発式参加者募集済み(定員約8,000人)
	セレブレーション	横浜市 横浜赤レンガ倉庫	●横浜市消防音楽隊による演奏 ●地元高校生によるダンス披露

第3項 聖火ランナーの選考

聖火ランナーは オリンピック精神の体現者

2018年11月、組織委員会は聖火ランナー選定の基本的な考え方を示すとともに、ランナー応募者に対し、組織委員会が策定した「アクション&レガシープラン」の「5本の柱」のうち、自己PRや応募動機の内容に沿う分野を選択してもらうことを示した。

具体的なランナー選考基準については、基本的な

考え方を踏まえ、ランナーの人数、ルート等が明らかになる時期(2019年)に選考方法とともに決定すること、また、ランナーの人選は、各都道府県やスポンサーが選考した候補者を含むすべてのランナーを組織委員会が取りまとめ、IOCの了解を得て決定することが示された。

ランナーの人数については、組織委員会のガイドラインでは、1日当たりのランナー数は「80人~90人」とし、そこから「聖火リレーパートナー」、「大会パートナー」であるスポンサー等に割り当てられるランナーを除いた人数(22人)が各都道府県の実行委員会選出ランナーとして割り当てられた。3日間のリレーが行われる本県は、計66人のランナーを選考することとなった。

県におけるランナー選考基準については、組織委員会が示した基本的な考え方を基にしつつ、県でのランナー選考に必要と思われる「ゆかりのある市町村」と「ゆかりの内容」を要件に追加することとし、聖火ランナー募集要項を作成、2019年6月28日にオリンピック聖火ランナー募集について記者発表を行った。また、ランナー選考に当たっては、「聖火ランナー選考部会」を設置し、自己PRや第三者の推薦文などの記載内容から、県や県内自治体とのゆかり、地域での活動状況などを把握し、その貢献度や効果などを評価するとともに、県内各地からバランス良く選考することとした。

【聖火ランナー選定の基本的な考え方】

対象:すべての人々

- 国籍、障がいの有無、性別、年齢のバランスに配慮しながら、幅広い分野から選定し、開かれたリレーとする
- 地域で活動している人を中心に選定

復興・不屈の精神(支え合う心)

- 日々の生活の中でも、家族、仲間、同僚などお互い支え合って、諦めずにどんな困難にも立ち向かう人

違いを認め合う包容力(認め合う心)

- 様々な人々との違いを認め合いながら新たなものに取り組んでいる人

祝祭による一体感(高め合う心)

- ランナーとして走ることで、地域の一体感を高め合うことができる人

東京2020オリンピック聖火リレー神奈川県実行委員会 聖火ランナー選考部会委員(2019年7月26日発表)

分野	分野の具体例	委員	
スポーツ・健康	スポーツ振興、健康づくり、共生社会の実現	委員長	鴻 義久(神奈川県体育協会会長)
		委員	戸井田 愛子(神奈川県身体障害者連合会会長)
街づくり・持続可能性	街づくり、地域活性化、環境・人権	委員	田崎 日加理(フリーアナウンサー)
文化・教育	文化芸術活動、オリパラ教育の推進	委員	石田 麻子(昭和音楽大学教授)
経済・テクノロジー	経済、サービス、農林水産、テクノロジー活用	委員	稲垣 良一(神奈川県商工会議所連合会専務理事)
復興・オールジャパン・世界への発信	復興、世界平和、日本の魅力発信、ボランティア	委員	望月 淳(神奈川県観光協会会長)

応募総数8,417人 倍率約165倍の高倍率

県実行委員会は、2019年7月1日から同年8月31日までの間、51人の聖火ランナーを公募した。県実行委員会が選考すべきランナーは66人であったが、ニュース性や発信力の高い聖火リレーにおいて、県の魅力を広く内外にPRしてもらうため、ルートの中でも特に魅力的な場所では、県にゆかりがあり、活躍されている著名人等に走行してもらうこととした。検討の結果15人程度をいわゆる「PRランナー」として直接選考することとしたことから、公募数はその人数を除く51人としたものである。

公募の結果、8,417人も応募があり、倍率は約165倍となった。応募者を見ると、「男女の比率は3:2で男性が多い」、「幅広い年代の応募があり、特に40代～50代の応募が多い」、「県内の全市町村在住の方からの応募があった」といった状況であった。

ランナー選考は、県の基準を念頭に置き、応募者全員の自己PRや応募動機、他者の推薦文、プロフィールに目を通して行った。また、国籍、障がいの有無、性別、年齢のバランスに配慮して幅広い分野から選ぶことを心掛けた。

また、前述の「PRランナー」についても、県民の認知度や県とのゆかりの度合いなどを勘案し、組織委員会が示した基本的な考え方も踏まえたうえで、PRランナーにふさわしい方を様々な面から選考した。

応募者はどの方も聖火リレーへの熱い思いにあふれており、選考はとても難しいものだった。最終的に公募ランナーとPRランナーの選考を終え、決定したランナー65人を発表したのは12月17日であった(翌年2月13日に3人のランナーを追加発表)。

県がめざす共生社会にふさわしい多様性に富むメンバーがそろい、地域のために尽くしてきた思いや諦めずに困難に立ち向かってきた力を胸に走ることによって県民に感動を与え、国内外に神奈川の魅力を発信していただける方々がランナーとなった。

誰がどこを走るか? ギリギリまで調整

ランナーの選考が終わると、次は走行箇所を決めていくことになるが、これも非常に難しい作業であ

った。県実行委員会が選んだのは、グループで走行するランナーも含め68人であったが、3日間で実際に県を走るランナーの合計は300人程度となる。これは、前述の県の公募ランナーやPRランナー以外に、聖火リレーパートナー、大会パートナーなどの、スポンサー等に割り当てられるランナーもいるため、県実行委員会の一存で走行箇所を判断できない部分も多かった。

県実行委員会としては、選ばれたランナーには、そのランナーにゆかりのある地域を走ってもらい、その地域をさらに元気にしてもらいたいという思いがあった。一方で、県全体のバランスを考慮して、ランナーは各市町村から、「ゆかりがある」か、「居住されている」方を少なくとも1人は選考したものの、リレー実施市町は15市町であるため、走行ルートをどこにすべきかは難しい調整となった。できる限りの調整を行った結果、最終的に決定した県実行委員会ランナーの走行市町の発表は、2020年3月9日となった。



Hope Lights Our Way
希望の道を、つなごう。

東京2020オリンピック
聖火リレー開催

神奈川県 募集期間:2019年7月1日(月)~8月31日(土) <https://kanagawa.runner.jp>

東京2020オリンピック聖火リレー 聖火ランナー応募ポスター

決定した聖火ランナー一覧 (2021年6月9日時点。走行日・走行市町別。敬称略)

走行市町	氏名	ゆかりの自治体	年齢(当時)	自己PR・応募動機の概要(内容はご本人から頂いた応募時点の原文のまま掲載しています)
箱根町	加藤 瑛大	大井町	13	小学校で特産のひょうたんを育てて色々な物を作ったり、自然豊かな大井町の名所や名物を調べPRなどをしています。町のイベントや地域のお祭りなどのボランティアに参加し、町の魅力を伝え、活気のある大井町にしていきたいと思っています。
箱根町	眞志堅 幸司	神奈川県	64	ロス五輪に出場し、金2個、銀1個、銅2個のメダルを獲得しましたが、モスクワ五輪は日本のボイコットで出場できませんでした。スポーツを通じて、戦争やテロの無い平和な世の中になるよう、想いを込めて走りたいと思います。
箱根町	近藤 美七海	箱根町	15	小学1年生からクライミングをやっています。学校が終わってから、小田原や川崎のジムに練習に行くのは大変ですが、箱根が大好きなのでずっと箱根に住んでいます。町の皆さんも応援してくれるので、これからも箱根に住んでクライミングを頑張ります。
伊勢原市	石川 小百合	山北町	49	静岡県出身で、転居当初は周りに知人もいませんでしたが、子ども会など、様々な活動をする中で、他の地区の人や幅広い年齢層の方々と交流をすることもできてきました。こうした地域との関わりの中で成長できた自分に自信を持って走りたいです。
伊勢原市	高橋 優花	伊勢原市	41	子育てママ音楽家グループ「Piccolini」の代表として、誰も分け隔てなくご家族で楽しんでもらえるコンサートを行っています。また、市民音楽会の企画運営、子育てサロンでのボランティア演奏など、伊勢原市の音楽文化発展のために積極的に活動しています。
伊勢原市	中西 英敏	平塚市	63	1983年に柔道世界選手権71kg級優勝、翌年に念願のロス五輪に出場しましたが3位決定戦で敗れ5位でした。その後は、母校東海大学の教員として、平塚の地で多くの五輪選手を指導しています。海外・日本の柔道・スポーツ界発展の為、聖火ランナーを務めます。
伊勢原市	野島 良実	開成町	58	録音奉仕会で視覚障がいの方のために図書を制作・音声訳録音媒体を届ける活動をしています。かながわ・ゆめ国体で炬火リレーに参加し、感動を味わったので、今度は聖火ランナーとして走り、その体験を記事にして視覚障害の読者と感動を共有したいと思います。
小田原市	バツツェゲ オチルサイハン	小田原市	19	モンゴル生まれ、小田原市にある旭丘高校に留学し、相撲を始めました。相撲部の活動でちびっこ相撲の指導などを通して地域の人たちと触れ合い、子どもたちから沢山の元気をもらっています。聖火ランナーになり、そうした人たちに恩返しをしたいです。
小田原市	鏡塚 俊彦	小田原市	55	菓子作りに欠かせないフルーツを畑から育てたいとの願いを実現するため、2011年に小田原市に農園併設パティスリー「一夜城ヨロヅカファーム」を開店しました。聖火リレーを担うことで、この地の豊かさを知っていただきたいと心から願っています。
大磯町	後藤 恵一	大磯町	62	定年退職後、地元のコミュニティFM放送局にパーソナリティーとして採用され、大磯町を中心に防犯情報、お役立ち情報等を発信しています。ボランティアとして剣道を指導している地域の子供たちに、聖火ランナーとして走る背中を見せたいと思っています。
大磯町	露木 行雄	真鶴町	73	1964年の東京五輪で聖火ランナーに選ばれ、箱根を走りました。現在は、「NPO法人セイラビリティ江の島」会員として、ユニバーサルデザインのヨットで、障がいのある人達などにヨットの楽しさを伝えています。人生二度目の聖火ランナーとして走りたいです。
大磯町	山崎 貴裕	二宮町	25	ぼくは生まれながらに障がいがありますが、県障がい者スポーツ大会の車いす100メートル走、ソフトボール投げを毎回楽しみに参加しています。おじいちゃんが前の東京オリンピックの開会式を見ました。自分も住んでいる湘南で聖火ランナーをやってみたいと思います。
平塚市・茅ヶ崎市	青田 正順	寒川町	64	寒川総合スポーツクラブを設立し、会員の方達とスポーツ教室や各種イベントを続けています。また「寒川びっちょり祭り」や「さむかわスポーツデイ」の運営に関わり、行政や様々なスポーツ・文化団体との交流を深め、町おこしを進めています。
平塚市・茅ヶ崎市	小山田 庸子	平塚市	59	認知症地域支援推進員として、認知症理解や認知症になっても地域で暮らせる町づくりに取り組み、認知症講座や「認知症カフェ」を実施して偏見をなくすための活動をしています。認知症の人たちにも温かい町になることを願い「聖火」をつなぎたいと思います。
平塚市・茅ヶ崎市	佐藤 彩香	神奈川県	25	一輪車を17年続けており、世界チャンピオンに2度輝いて市の特別表彰を受けました。夢は一輪車をオリンピック種目にする事で、普及活動や小中学生への指導もしています。聖火ランナーになって一輪車を広め、地元を盛り上げていきたいと思っています。
平塚市・茅ヶ崎市	武内 典夫	平塚市	62	「世のため人のため」、「Pro bono publico(公益のために)」をモットーに、地域医療の維持・向上のため、病院の新築移転やホームレス巡回健康相談などの生活困窮者支援を実施してきました。今までの人生を支えてくれた地域への恩返しを聖火に込めて走りたいです。
平塚市・茅ヶ崎市	田中 江里	葉山町	53	葉山の病院で院長をしています。高齢者も多いこの町で、いざという時の寄りどころである病院をめざしています。超高齢社会は、何らかの障害を持つ方ばかりです。聖火ランナーとして走ることで、意欲を持ち続けて生きることのメッセージを伝えたいと思います。
藤沢市	澤崎 弘美	逗子市	53	眼科専門医、障害者スポーツ医として、主に視覚障害のある方々と一緒に、困難を抱えた人も生きがいを持ち心豊かな生活を送れる地域づくりをしています。聖火ランナーとなり、多くの人に「共に暮らそう」とメッセージを贈りたいと思います。
藤沢市	つるの 剛士	藤沢市	46	地元藤沢市から「ふじさわ観光親善大使」を任されて、地元のために活動しています。地元藤沢が大好きです！聖火ランナーとして走り、聖火リレーやオリンピックを地元の皆さんと一緒に盛り上げたいと思います。
藤沢市	永井 洋一	藤沢市	64	地域の元気発信をテーマに、住民有志を募り「湘南辻堂四季まつり」などを開催しています。また、多くの署名を集めて、辻堂駅の発車ベルを辻堂ゆかりの「浜辺の歌」とするなどの活動をしました。大好きな藤沢の街並みを、聖火ランナーとして駆け抜けたいです。
藤沢市	廣瀬 俊朗	神奈川県	39	ラグビー日本代表チームで主将を務めました。現在はラグビッシュ、スポーツ、教育を軸とした活動をしています。元ラグビー日本代表選手である自分が聖火ランナーとして走ることで、ラグビーW杯の盛り上げがりをオリンピックへと繋いでいきたいと思っています。
藤沢市	宮下 空唯	藤沢市	20	5歳から地域固有種の藤沢メダカの保存を始め、現在はボランティアとして活動しています。江ノ島での海洋活動やライフセービングクラブ活動のほか、JAXA選抜アジア宇宙会議などにも参加しました。江ノ島と富士山を望みながら、藤沢の道を聖火で繋いで下さい！
三浦市	副島 保彦	藤沢市	62	オリンピック出場をめざしてボクシングの練習に励み、大学3年生の時にモスクワ五輪代表となりましたが、日本のボイコットにより幻となりました。東京オリンピックの聖火ランナーとして走ることで40年前のモスクワ大会の無念を感動に変えたいと思っています。
三浦市	津田 桂	相模原市	56	ボイコットとなったモスクワ五輪女子体操競技の代表でした。現在は小学校教諭の傍ら、児童や障害児の体操教室にも携わっています。聖火ランナーを務めることで、一生命取り組んだことは、目指した結果にならなくても、人生を支えるものになることを伝えたいと思います。
横須賀市	池井 将	横須賀市	28	記者としての活動の中で難病を抱える少女に出会い、退職してボランティアで手術費用を全国で募り、半年かけて目標を達成。現在は「ぬくもり」と名付いた学童保育で様々な体験活動をしながら子どもと接しています。
横須賀市	ギャンビル ウィリアム海音	横須賀市	14	くりはま花の国の射撃場で練習をしています。全日本中学生大会で優勝し、神奈川県初の年少射撃資格も取得しました。6歳の時から横須賀開国甲冑隊の一員としてパレードに参加したり、横須賀市のジャパフェスタのお手伝いをして地域で活動しています。
鎌倉市	石井 秀卓	鎌倉市	56	東日本大震災後、鎌倉市大船と名前が似ている岩手県大船渡市の復興支援イベント「大船大船渡」を主宰しており、10年継続して約4万人を動員するお祭りになりました。復興の力と感謝の気持ちを分かち合うために走りたいです。
鎌倉市	武重 沙良	横浜市	16	生まれつき障がいがありますが、小学校では工夫すればできることは何でも挑戦してきました。勉強、校外学習、運動会もです。どんなことにも挑戦する姿勢は、中学生になった今も変わりません。私が走ることで、周りの人たちに感動や元気を与えたいと思います。
鎌倉市	藤沼 美幸	逗子市	51	逗子市観光協会などと連携して、地域活性化イベント「Night wave」での運営など、「逗子の明日を切り拓くチャンス」のために活動しています。逗子市のSDGsなどを支える活動を継続し、地元パワーの代表として聖火ランナーを務めます。
鎌倉市	富田 京子	神奈川県	56	プリンセスプリンセスと言うバンドでドラマーとして活動していました。昨年、「ピンクリボンふじさわ」と言う団体を立ち上げ、乳がん検診を受けようと呼びかけています。聖火ランナーとなって、検診の大切さを知ってもらいたいと思います。
海老名市	有持 真人	神奈川県	59	山岳ガイドとして湯河原や厚木、丹沢など県内全域で活動しています。海や山の恵みにあふれた神奈川県の魅力、山岳ガイドの仕事を通して広めていきたいと思っています。
海老名市	大澤 力	海老名市	41	海老名で美容室を経営しており市優良事業所表彰を受賞しました。地域で子供たちのために毎年ハロウィンフェスタやジュニアフットサル大会を開催し、地域振興や青少年の健全な育成に努めています。聖火ランナーを務めることが夢でした。

走行市町	氏名	ゆかりの自治体	年齢(当時)	自己PR・応募動機の概要(内容はご本人から頂いた応募時点の原文のまま掲載しています)
海老名市	KENZO (DA PUMP)	海老名市	36	子供達にダンスを教えるなど地域に密着した活動をしています。海老名市親善交流大使に任命され、海老名市のみなさんが気軽に踊れるEBINAダンスを考案しました。一生に一度かもしれない東京オリンピックの聖火ランナーとして、盛上げたいと思います。
厚木市	あべ ひろし 阿部 洋	厚木市	69	「厚木好き人間」をテーマに街づくり運動を展開するなど各種団体の代表や役員として地域で活動してきました。困難な時も厚木に根ざし乗り越えてきたからこそ現在があることに感謝し、聖火ランナーとなって多くの仲間と喜びを分かちたいと思います。
厚木市	チャンスリー りゅうたか 龍海	神奈川県	13	座間出身の母とタイ人の父の間にタイで生まれ、小学2年生の時に日本にきました。学校から見える大山の景色が大好きです。世界中の人が集まって仲良くなれるオリンピックで、聖火リレーを走ること、将来に役立つことがあるかもしないと思います。
相模原市	こいずみ きょうみ 小泉 京美	相模原市	61	NPO法人「海外に子ども用車椅子を届けようプロジェクト」で、累計3000台の車椅子をアジア諸国に届けました。その車椅子がきっかけとなり、パラリンピックに出場した子もいます。聖火ランナーとして走ること、協力者の方々に感謝を伝えたいと思います。
相模原市	さとう ひろ樹 佐藤 弘樹	松田町	40	祖父の代から3代にわたり開業医として地域医療に貢献してきました。公開講座の講師や、マラソンの医療救護班として活動したり、高校の学校医として生徒の健康管理に携わっています。心から愛している神奈川県で聖火リレーの役割の一端を担えたいと思います。
相模原市	つきざき りゅうたか 月崎 竜童	相模原市	37	小惑星探査機「はやぶさ・はやぶさ2」のイオンエンジンの開発に携わる科学者です。聖火もイオンエンジンと同じ太陽のエネルギーで採火され、国民の希望や期待を背負って日本を縦断します。宇宙工学者としてその一翼を担えるよう精一杯努めたいと思います。
相模原市	のぐち ひろし 野口 博史	愛川町	62	町青少年健全育成会の役員・会長として、町一周駅伝競走大会を通じて地域への連帯意識を高める取り組みや、田植え・稲刈り・もちつきなどの活動を行っていました。教員としては定年退職となりましたが、これからも小中学生の健全育成に貢献したいと思います。
川崎市	アレックス ラミレス	神奈川県	46	2000年に来日して選手として3球団を経験、2016年に横浜DeNAベイスターズの監督に就任しました。聖火ランナーとして走り、ベイスターズを応援してくれる地域の皆さんと聖火リレーや東京2020大会を盛り上げたいと思います。
川崎市	ごとう シズ 五島 シズ	川崎市	93	大学病院等で看護師として働いてきました。90歳を超えた今、地域認知症キャラバン隊や若年認知症の家族会、地域の認知症カフェ等でボランティアを行っています。また、認知症介護相談など病氣や障害のある方々、認知症の人と家族への支援を続けています。
川崎市	ささき あやか 佐々木 彩夏 (ももいろクローバーZ)	—	24	
川崎市	たかぎ れに 高城 れに (ももいろクローバーZ)	—	27	私たち3名は神奈川県出身で、「ももいろクローバーZ」のメンバーとして活動しています。ゆかりの深い神奈川県で私たちが聖火ランナーとして走ること、聖火リレーを盛り上げたいと思います。
川崎市	たましい しおり 玉井 詩織 (ももいろクローバーZ)	—	26	
横浜市	あねざき まさお 姉崎 正男	大和市	75	昭和39年の大和市スポーツ少年団創設時から少年野球を中心に指導者として子供達に携わり、少年団の運動会をコンパニオンと名付け50年に渡り開催しています。聖火ランナーとなり、夢と希望を持つことの大切さを伝えたいです。
横浜市	あおき やすゆき 青木 保潔	神奈川県	57	補助犬ガイド士で盲導犬と一緒に横浜で暮らしています。障害があっても地域の仲間や盲導犬と共に支え合い、生き生きと活動している姿を多くの方に見ていただくことで、共生社会の実現のきっかけにできると考えています。
横浜市	うえの みずか 上野 水香	神奈川県	43	バレエダンサーとして、神奈川の文化芸術の振興に努めてきました。2007年からは神奈川県観光親善大使としても活動しているので、聖火ランナーとして走り神奈川県を世界に向けて発信したいと思います。
横浜市	うの あやか 宇野 綾香	横浜市	15	私は中学2年生で知的障がいがあります。地域の方々に助けていただきながら地域の中学校に通っています。先生や友達と毎日一生懸命、楽しく元気に過ごしています。小さい頃から見守ってくれている皆さんに感謝して走りたくです。
横浜市	おおらい なをみ 大類 なをみ	横浜市	22	大学で英国五輪・パラ選手団の事前キャンプ受入れサポートを行う学生団体の代表を務めており、現在、英国パラ選手のため構内のリアフリーマップ作成に取り組んでいます。聖火ランナーとしてスポーツ振興と共生社会の実現、平和への願いを表現したいです。
横浜市	かわせ けんたろう 川瀬 賢太郎	神奈川県	36	2014年から神奈川県フィルハーモニー管弦楽団の常任指揮者として定期演奏会や子どもたちの音楽芸術体験事業など、地域密着で文化・芸術のために活動をしています。地域の皆さんと一緒に、聖火リレーやオリンピックを大いに盛り上げたいと思います。
横浜市	くさぶき みつこ 草笛 光子	横浜市	87	横浜市で生まれ育ち、女優として舞台やラジオ、映画、テレビに出演するようになって、忙しい日々の息抜きが横浜にいる時間でした。聖火ランナーとして走ること、同世代の方々に何歳になってもチャレンジを忘れず前向きに生き抜きましょうと伝えたいです。
横浜市	くらはし りょういち 倉橋 良一	中井町	59	神社の例大祭で神輿の担ぎ手や式典の楽人など、地域の伝統を守る活動の他、消防団員として地域を災害から守ってきました。現在は地域の防災リーダーとして、地域の安全を守っています。聖火を繋ぐ重要な役割を果たすことで、社会に貢献したいと思います。
横浜市	こねま ありか 児玉 ありか	横浜市	24	第50回全国ろう学校卓球大会女子個人準優勝。第一回オープンデフユース卓球世界大会女子ダブルス優勝、女子シングル準優勝。現在は横浜市内の企業に勤務。ろう者はパラリンピックに参加できませんが、オリンピック・パラリンピックを是非応援したいと思います。
横浜市	すぎた いさむ 杉田 勇	横浜市	78	自称「車いす紙芝居おじさん」として、地域で紙芝居を披露しています。介護施設を巡回上演中で、車いす使用のため苦勞がありますが、来年の五輪開催中に500回上演の夢が叶うようがんばっています。青空の下、楽しみながら車いすで走行したいです。
横浜市	せんじゆ まりこ 千住 真理子	横浜市	59	かつて住んでいた横浜でコンサートやイベントを多く行っており、横浜には愛着があります。横浜で聖火ランナーとして走り、聖火リレーや東京2020大会を盛り上げたいと思います。
横浜市	たにはら しゅうげ 谷原 章介	横浜市	48	横浜市の港北区で育ちました。緑も多く自然と共に育った事が自分の人格形成に強く影響しています。横浜マラソンのアンバサダーも務めるなど横浜にはとても愛着があります。愛する横浜のために聖火ランナーとして走りたくと思います。
横浜市	つじむら たくみ 辻村 琢光	藤沢市 南足柄市 (※旧居住地)	21	10歳の時に骨肉腫を患い、中学の時に利き手を変えて卓球を始めました。藤沢市の高校に進み、パラ卓球日本代表に選出されました。小児がんになって10年、20歳の節目に希望のトーチを持って走り、海外も視野に入れ社会に貢献できる人間になりたいです。
横浜市	でがわ てつろう 出川 哲朗	横浜市	57	まさか僕が聖火ランナーとして走るなんて、これこそ本当にヤバイよ!ヤバイよ!です!選んで頂いた事に感謝し、地元横浜という事を誇りに感じて走らせて頂きます!
横浜市	なかむら あゆみ 中村 歩	湯河原町	51	ボランティアで放課後の子供教室を立ち上げ、地域の方に教わる様々な体験活動で、子供の自己肯定感向上と自ら成長する手助けをしています。聖火ランナーとなり、教室の子供達や家族を亡くしたばかりの我が子に未来は拓ける事を証明したいです。
横浜市	いかり けん 埴 健	鎌倉市	58	鎌倉市に居住し、鎌倉野菜を作って、市内の子供食堂などに無償提供しています。何らかの事情で家で食事をとれない子供たちに少しでも安全な有機野菜を届けたいと思っています。子供たちに喜んでもらえる野菜は何かと考えながら、土を耕し、種植えをしています。
横浜市	ふじい あや 藤井 文	横浜市	48	2005年に中国から日本に来た後、障害者団体のローリングバレーボールの練習に会い、ボランティアで参加するうちに日本語も上手になりました。また、「鶴見国際交流ラウンジ」では、多文化共生の分野で沢山のボランティア活動に参加しています。
横浜市	まさき かほ 正木 楓	厚木市	25	障害を負ってからも、これまで培ってきたあきらめな心と努力する姿勢で頑張ってきました。脊髄損傷の聖火ランナーとして走ること、障害者と健常者の壁を取り払い、皆が暮らしやすい街づくりの第一歩になればと思います。
横浜市	まつだ りさこ 松田 理佐子	相模原市	29	私は生まれつき左手がありませんが、学生時代は健常者に混ざってスポーツに打ち込み、今は障がい者とその家族を支えるため、理学療法士として働いています。私は最近県立病院で訓練を受け筋電義手という「左手」を得ました。この義手で聖火を繋ぎ、人々の多様な橋渡しをしたいです。
横浜市	みづら ようへい 三浦 洋平	座間市	42	福祉と医療を考えた「人」への支援を行っていきたいと思い、認知症看護認定看護師の資格を取得しました。都会的な部分と自然豊かな部分があるとても魅力的な地域、神奈川県では、「人」、特に認知症者への支援を続けていき、皆の幸せを追求していきたくです。
横浜市	やまぐち ひろし 山口 宏	横浜市	62	私は横浜で生まれ育ち、現在は、横浜市スポーツ協会会長等の立場で、横浜の地域スポーツをサポートしています。スポーツ振興の現場でたくさんの方が汗を流し、尽力されていることに感謝しながら、皆さんのスポーツへの熱い思いを胸に聖火ランナーを務めたいと思います。
横浜市	やまざき ゆういちろう 山崎 雄一郎	横浜市	63	こども医療センターで毎日子供達の診療に携わっています。難病をもつ子供達のため、「Run for kids Yokohama」という、走ることで病児を応援するプロジェクトを立ち上げました。遠方から小児病院に来るお子さんを支える「リラのいえ」などの支援もしています。

第4項 聖火リレーの機運醸成

「県のたより」や「かなチャンTV」を活用した広報の展開

県は、聖火リレーの機運醸成を目的として、様々な企画を試み、実行した。

「県のたより」2020年3月号では、県内を走る聖火ランナーへ座談会形式の取材を実施。出演者は、富田京子氏、月崎竜童氏、五島シズ氏、辻村琢光氏、大類なをみ氏の5人(プロフィールはp.100-101参照)。「聖火ランナーに決まったときの気持ち」、「本番に向けて準備をしていること」、「現在の意気込み」などをそれぞれに語ってもらった。座談会の様子は動画でも配信した。「県のたより」では、このほかにも、2019年8月号、2020年2月号、2021年6月号で聖火リレーを紹介した。

ももクロとのコラボ企画でリレー応援の動画を制作

県のPRランナー15人には、ガールズユニットの「ももいろクローバーZ」(以下、「ももクロ」という。)から県出身の佐々木彩夏氏、玉井詩織氏、高城れに

氏の3人が選ばれていた(※)。そこで、ももクロに協力を頂き、県の情報を届けるYouTube番組「かなチャンTV(神奈川県公式)」で自転車競技BMXで日本の女子選手として初めての出場を決めた畠山紗英選手とのコラボ動画を制作した。また、聖火リレー本番に向けたリハーサル動画も公開。エアタッチでトーチキス(ランナーが次のランナーに聖火を受け渡すこと)、ポージングの練習などをして、番組を盛り上げてくれた。

このほか、県内を走る聖火ランナーを多くの県民の皆様にご覧いただき、身近に感じてもらえるよう、県実行委員会が選考したランナーから寄せられたメッセージ(自己PRと応募動機、一言・意気込み)を写真付きでホームページに掲載した。

また、聖火リレーで使われるトーチを、2020年11月12日から県庁新庁舎1階ロビーに展示。県民の方が立ち寄って、記念撮影をされる姿も見られた。その後、県内市町村でも展示することとした。

県では、920万県民の記憶に深く刻み込まれる素晴らしい聖火リレーが実現できるよう、機運醸成と準備を進めていた。



①メンバーの3人が県にゆかりのある、ももいろクローバーZが応援動画に登場した②BMXの日本代表の畠山紗英選手との対談が実現③県庁新庁舎1階にて聖火リレートーチを展示④「県のたより」2020年3月号でも、聖火ランナーへのインタビューを掲載

第5項

コロナに振り回された聖火リレー

コロナの感染が広がり 対策に追われる

2020年3月24日、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、東京2020大会の延期が決定。3月26日に福島県をスタートするはずであった聖火リレーも延期となった。

組織委員会は、聖火リレーは大会の延期の時期にあわせて新たな日程を定めることを明らかにし、対応の検討を進めるとしていた。しかし、感染状況が改善しない中で、日数の短縮やコースの見直しなどについて様々な憶測が報道された。

こうした中、県ではランナーの方々に定期的にメールを送信し、検討状況を伝えていた。

その後、2020年9月25日に開催されたIOC調整委員会会議において、延期後のオリンピックの簡素化に向けた見直し項目が合意された。

その中では、聖火リレーについて121日間の実施日数、セレブレーションの実施回数113回を維持し、聖火ランナーは現行のランナーを尊重することが示された一方、運営隊列の車両削減や、セレモニーの装飾や機材の見直しなどの簡素化が示された。

これを受け、組織委員会は9月28日に新たな聖火リレーの実施日程を発表。聖火ランナーについては、既に決定していたランナーに優先して走行していただくことを表明。県も同日、県の聖火リレー実施日が2021年6月28日(月)から6月30日(水)までの3日間となることを発表した。

また、簡素化の方針が示されたことを踏まえ、県でも出発式、ミニセレブレーション及びセレブレーションなどの内容の見直しを進めることとした。

その後、12月15日には、組織委員会から新たな聖火リレーの実施市町等が正式に発表され、県内では延期前と同じ市町で行われることが確定した。

こうした動きの中、県では延期後の聖火リレーの実施に向け、1年延期に伴う課題の洗い出しや、ルートやランナーの再検証などを進めた。

まず、ルートについて、実施する市町等はIOCの

承認を得て決定されているため、やむを得ない事情がない限り変更はなく、新たに追加されることもない旨、組織委員会から伝えられていたが、詳細なルートについては、1年が経過することで道路状況等が変化していることも考えられることから、県としてはルートの微修正などがあり得ると考えていた。

また、ランナーについては、県としても、県実行委員会において選考したランナーに走行していただきたいと考えていたが、本人の事情により辞退の申出がある場合などには、変更となる可能性もあることから、メールなどにより定期的にランナーとの連絡を取り続けた。

聖火リレーにおける感染症対策については、2021年2月25日に組織委員会から「東京2020オリンピック聖火リレーにおける新型コロナウイルス感染症対策に関するガイドライン」が示された。主な対策として示された概要は、

●聖火リレー沿道での密集回避

※ランナーの走行の様子は、インターネットのライブ中継で視聴可能

※著名人ランナーは、密集対策ができる場所での走行を予定

●ルート沿道やセレモニー会場でのマスク着用、拍手等での応援

●セレモニー会場の事前予約制等による密集の回避

●過度な密集が発生した場合は、聖火リレーを中断

●聖火ランナー、運営スタッフ等の体調管理

といったものであった。そこで、県では、著名人ランナーについては、走行予定の道路状況によって密集対策が難しいところもあることから、観覧者の立ち入りが制限できるよう、公道ではなくルート周辺の公園内を走行してもらうことなどを検討した。また、ルートを含めて周辺でどのような警備を行うかといった調整や、それに伴う著名人ランナーとの調整を並行して進めた。

なお、メディアに向け、沿道での密集対策として、ランナーの走行箇所に関する情報は、スタート予定の30分前まで非公開とすること、また、ランナー本人

がメディアやSNS等で走行場所を公表することを禁止するなどの対応もあわせて行うことが伝えられた。

県では、沿道の観覧者や、出発式、セレブレーションなどのセレモニー会場における観覧者の感染症対策としては、発熱や風邪症状があるなどの体調不良時の観覧を控えることや、観覧時のマスク着用、フィジカルディスタンスの確保といった基本的な感染症対策の徹底のほか、密集時の注意喚起を呼び掛

けるためのスタッフの増員配置など、詳細な警備体制の検討も進めた。

このほか、ルートについての最終的な調整として、ルート周辺の工事等による環境変化に伴う変更や、交通規制強化に伴う主要交差点のルート形状変更なども行い、2021年3月31日、詳細ルート及び県実行委員会のランナーについて改めて取りまとめ、発表した。



①箱根町・伊勢原市を走行予定だったランナーの皆さん ②元ラグビー日本代表主将の廣瀬俊朗氏 ③1980年のモスクワ大会ボクシング代表(日本は不参加)の副島保彦氏 ④小さいころから見守ってくれている皆さんに感謝して走りたいと語る宇野綾香氏 ⑤神奈川フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者の川瀬賢太郎氏 ⑥子どもたちに少しでも安全な鎌倉野菜を届けたいと語る埴健氏



①藤沢市を走行予定だったランナーの皆さん ②相模原市を走行予定だったランナーの皆さん ③子ども会など様々な活動で地域の方と交流している石川小百合氏(左)と録音奉仕会で活動する野島良実氏(右) ④地域固有種である藤沢メダカの保存など様々な活動に励む宮下空唯氏 ⑤学童保育での様々な体験活動を通じて子どもたちと接している池井将氏 ⑥神奈川県初の年少射撃資格を取得したギャンビルウィリアム海音氏 ⑦海老名市で様々なイベントを通じ地域振興に携わる大澤力氏(左)と山岳ガイドとして県内全域で活動する有持真人氏(右) ⑧元氣よく笑顔で楽しみたいと語るチャンスリー龍海氏(左)と「厚木好き人間」をテーマに街づくり運動を展開してきた阿部洋氏(右)

感染状況は悪化し ランナーの辞退が出始める

2021年を迎え、聖火リレー開催時における感染症対策の検討が進められていたが、依然として感染状況は改善せず、大会の開催すら危ぶまれていた。そうした中、全国各地で聖火ランナーの辞退者も出てきた。

聖火リレーが始まる3月25日までには、各都道府県のPRを担う著名人ランナーの辞退が相次いで報じられた。多くの著名人は、1年延期に伴うスケジュールの都合を理由としていたが、感染症対策で沿道の密集回避が求められる中での参加による影響へ

の懸念を理由とする辞退者もいた。

こうした動きの中、本県でも、「コロナ禍における大会開催への疑問」や、「スケジュールの都合」などを理由に、3月から6月にかけて、4人のPRランナーが辞退することとなった。一方で、公募ランナーの中から辞退者はなく、予定どおり本番を迎えられることとなった。

県実行委員会としては、早い段階で辞退者が出たルートについては、事前に登録されている補欠ランナーなどからの繰り上げを行ったが、開催が迫った時点での辞退に対しては、走行予定だった前後のランナーの走行距離を調整することで対応することにした。

県内公道走行中止の発表と 黒岩知事の思い

新型コロナウイルス感染症が収束しない中、聖火リレーは2021年3月25日に、福島県からスタートし、47都道府県を進んでいた。

しかし、感染が拡大する中、10都道府県目となる大阪府では、4月7日の時点で、4月13日、14日に予定していた全区間の公道走行を中止し、セレブレーション会場である万博記念公園内で代替のリレーを行うことを公表。当日は無観客の中、公園内のルートを周回しながらランナーが聖火をつないだ。

その後も公道走行を中止し、無観客の会場内で代替でのリレー走行を行う県や、セレブレーション会場のステージ上で走行せず、聖火をつなぐセレモニーを行う県などが相次ぐ状況となった。

組織委員会からは、「原則として、緊急事態宣言や不要不急の外出自粛が発出されている場合は公道での聖火リレー実施を見合わせる」との判断基準が示されていた。こうした中、県としては、予定どおり公道走行を実施することを前提に、「県のたより」などの広報媒体も活用し、リレーを観覧する際の感染症対策の徹底をはじめ、沿道の密集を避けるため、なるべくインターネットのライブ中継を視聴いただくことなどを呼び掛けたほか、セレブレーションや出発式、ミニセレブレーションが行われる会場での基本的な感染症対策の準備や観客の人数制限の検討などを着実に進めた。また、リレー開催時の交通規制を知らせるチラシや看板、横断幕等の制作・設置、ホームページでの周知なども予定どおりに行った。



交通規制を知らせる看板。聖火リレールートやルート周辺道路に設置した

そして、聖火リレーは、3日間かけて県内を巡り、県民やランナーの思いをオリンピックに向けてつないでいくために実施するものであり、できる限り予定どおり公道でのリレーを行いたいという強い思いから、感染状況を見極めつつ、ギリギリまで公道走行に関する判断を待つことにした。

この時期、新型コロナウイルス感染症の影響で別の問題も生じていた。高齢者へのワクチンの接種を加速するため、各自治体が接種会場を設置し接種を進めることとなったが、接種会場へのルートと聖火リレーのルートや交通規制エリアが重なる所では、リレールートを変更せざるを得ず、その対応にも当たらなければならなかった。

県は、4月20日に「まん延防止等重点措置」の区域に指定された後、いわゆる「第4波」は5月半ばにピークを迎え、その後は感染者数の減少傾向が続いた。しかし、6月第2週に入ると、感染者数が3日続けて前週を上回るなど、引き続き、予断を許さない状況にあった。そのため、「まん延防止等重点措置」が適用期限の6月20日までに解除されたとしても、しばらくの間は、外出自粛を要請せざるを得ない状況が続くことが見込まれた。

そうした状況の中、連日幹部職員が黒岩知事の下に集まり、感染者数の推移や他県の動向も視野に入れながら、熟慮に熟慮を重ねた。最終的には6月10日の時点で公道走行を全面中止にすることを決断。

エピソード 07 ランナーの 皆さんに感謝

公道走行が中止になり、代替の点火セレモニー。職員はとても緊張してランナーをお迎えした。しかし、「こまめに連絡をもらったので、状況が分かった」、「他県のランナーから神奈川は親切でいいねと言われた」、「(笑顔で)ここまで大変だったでしょう」と言われて、思わず涙。その後「ギリギリまでの調整に感謝」、「ランナーの無念を理解したうえでの心遣いがうれしかった」、「皆さんも胸を張って!」とメールをいただき、また涙…。ランナーの皆さんは、職員の「希望の道」までつないでくださいました。



1



2



3



4



Photo by Tokyo 2020

5



Photo by Tokyo 2020

6



7

①小田原市を走行予定だったランナーの皆さん ②大磯町を走行予定だったランナーの皆さん ③鎌倉市を走行予定だったランナーの皆さん ④横浜市(トヨタレンタカー元町石川町店前~マリンタワー前バス停)を走行予定だったランナーの皆さん ⑤1984年のロサンゼルス大会柔道代表の中西英敏氏 ⑥「車いす紙芝居おじさん」として紙芝居の巡回上演を行う杉田勇氏 ⑦寒川総合スポーツクラブを設立し町おこしを進める青田正順氏

あわせて、県内2か所で開催を予定していたライブサイトも中止することとし、その日のうちに組織委員会に中止の意向を伝え、翌6月11日の定例会見で黒岩知事が中止を発表した。また、発表にあわせて市町村をはじめ関係機関に急ぎ状況を報告し対応をお願いするとともに、ランナーの方々に対し公道走行中止へのおわびと理解を求める連絡をした。

聖火リレーはランナーが主役であり、一生に一度の機会であること、大会の1年延期を経て、県の代表として公道を走る日が間近に迫り、晴れ舞台を心待ちにされていることを思うと、誰しもが、「何とかして予定どおりに走っていただきたい」という強い思いでいっぱいであった。また、ルート選定や聖火リレーの盛り上げのため、様々な協力を頂き、当日に向け準備を進めてきたルート関係市町、また、各日の出発式やセレブレーション等への出演のために、練習を重ねてきた地域の方々の期待にもこたえたかった。

しかしながら、感染状況が思うように改善しない

中、これ以上決断が遅くなると、代替イベントの実施すら難しくなる状況となり、医療部門も含めた協議の末、正に、「ギリギリでの判断」となった。

6月11日の定例会見の場で、黒岩知事は「公道での走行を心待ちにされていた聖火ランナーの皆様、ライブサイトでの観戦を楽しみにされていた県民の皆様、そして、関係機関の皆様には、大変申し訳ない気持ちでいっぱいです。特に、ランナーの皆様は、2年前にご応募いただいてから、大会の1年延期もあり、目前に迫ったリレーの走行を待ち望んでおられたことと思います。公道での聖火リレーは中止しますが、ランナーの皆様には、是非、走行予定日のセレブレーション会場にお越しいただき、トーチキスにより、大会に向けて聖火をつないでいただけるよう、今後、組織委員会と協議してまいります。ランナーの皆様のリレーに託した様々な思いをしっかりと受け止め、県民の皆様へ伝えられるようなセレモニーにしたいと考えています」とコメントした。

走らずに聖火をつなぐ 点火セレモニーに変更

公道走行が中止となったため、各日のセレブレーション会場において、聖火ランナーによる「点火セレモニー」へとイベント内容を切り替えた。

点火セレモニーとは、ランナーがトーチに灯した聖火を、トーチと同じく桜の花をモチーフにした聖火皿までつないでいくセレモニー。当日走行を予定していたランナーが、複数のグループに分かれ、トーチキスで聖火をつないだのち、最終的に聖火皿に聖火を点火する。

1日目(6月28日)は、藤沢市の辻堂神台公園で点火セレモニーを行った。まず、県の第1走者であった1984年のロサンゼルス大会体操金メダリストの具志堅幸司氏からスタート(p.22[1])。その後、聖火ランナーユニフォームを着たランナーが順々に登壇して、トーチキスを行った。トーチの聖火が次のランナーに無事に託された後は、2人が独自のポーズを披露。最後は1日目の最終ランナーであるタレントで「ふじさわ観光親善大使」を務める、つるの剛士氏から、聖火皿へと聖火が点火された(p.22[2])。

2日目(6月29日)の会場は、相模原市の橋本公園。当日は朝から大雨に見舞われたが、トーチキスが開始される時刻には雨も上がり、青空も見える中での点火セレモニーとなった。日本は不参加だった1980年のモスクワ大会で女子体操の日本代表選手であった津田桂氏からスタートし(p.22[3])、最後は「県のたより」で紹介した、はやぶさのイオンエンジン開発者である月崎竜童氏が聖火皿に点火した(p.105[4]左から2人目)。

横浜赤レンガ倉庫から 神奈川県聖火の旅立つ

最終日となる6月30日は、横浜赤レンガ倉庫で、点火セレモニーを開催。この日のトーチキスは、第1区間の第1走者だった「ももクロ」の3人からスタート(p.30)。ランナーも残る2人となったところで、トーチキスはいったん終了となり、「NTT Presents 東京2020オリンピック聖火リレーセレブレーション」として、通信テクノロジーを使って、自宅にしながらセレブレーションの雰囲気を感じられ

るイベントがスタート。特設会場で様々な企画が披露され、その映像は全国に配信された。

横浜赤レンガ倉庫の1号館と2号館の間で光の演出が施され、最終ランナーとなるダンス&ヴォーカルグループEXILEのメンバー ÜSA氏は、バレリーナの樺澤真悠子氏から聖火を託され、聖火皿へと走っていった。小雨が降る中でのイベントとなったが、3日間にわたる県の聖火リレーは幕を閉じた。

県では、公道を走れなくなったランナーの気持ちを受け止め、点火セレモニーに参加して良かったと少しでも思ってもらえるよう、当日のオリエンテeringでは、ランナーの期待に沿えなかったことをおわびし、セレモニーに参加いただいたことに対する感謝の意を伝えた。また、会場内に県実行委員会として独自のブースを出展し、七夕飾りに職員からランナーへの感謝のメッセージを書いた短冊を飾った。

各日の点火セレモニー終了後にランナーに感想を聞くと「参加して良かった」と笑顔でこたえていただいた方が大勢いた。イベントが切り替わったことでランナー同士の交流が新たに生まれた。また、スポンサーブースも数多く出展いただけたことで、ランナーと家族が皆で楽しんでいただける空間になり、点火セレモニーならではの思い出が生まれていたようだった。

なお、点火セレモニーを行った6月28日から30日までの3日間、午後7時から午後8時まで、県庁本庁舎において、トーチに灯る聖火をイメージした特別なライトアップを実施した。

県としては、県内での聖火リレーの実施に向け、約5年にもわたる時間をかけて準備をしてきただけに、当初の予定どおり公道を走れなかったことに関しては、残念な思いは残るものの、聖火ランナーをはじめとする多くの関係者の理解と協力を得て、無事に聖火を送り出すことができた。



点火セレモニー会場の県実行委員会ブースの様子

第2節

パラリンピック聖火

県内全市町村で採火した火を一つに。
 厳かな雰囲気の中、「集火・出立式」を開催した

パラリンピック聖火リレーの 歴史とコンセプト

パラリンピック聖火リレーは、オリンピック聖火リレーとは、歴史やコンセプトが違っている。

パラリンピックで聖火が初めて登場したのは、1976年のトロント大会である。当時は3人のパラアスリートによって聖火台に火を灯すことで、開会式が行われた。「パラリンピック聖火はみんなのものであり、パラリンピックを応援するすべての人の熱意が集まることで聖火を生み出す」というパラリンピックの理念に基づいたものだ。

東京2020パラリンピック聖火リレーのコンセプトは「Share Your Light / あなたは、きっと、誰かの光だ。」。パラリンピック聖火リレーを通じて、社

会の中で誰かの希望や支えとなっている多様な光(人)が集まり、出会うことで、共生社会を照らす力としよう、という思いを表現している。

組織委員会からパラリンピックの聖火リレーの概要が公表されたのは2019年3月25日。

それによると、パラリンピックの聖火リレーが行われるのは開催都市東京のほか、競技開催県となる埼玉、千葉、静岡のみとされた。ほかの道府県では、次のような内容で「パラリンピック聖火フェスティバル」を行う。

- 採火(式) :各道府県それぞれの共生社会やパラリンピックへの思いが込められた火を独自の手法にて採火
- 聖火ビジット:各道府県内の各所(学校、病院などをランタンが訪問(任意))



パラリンピックの聖火リレーのコンセプト「Share Your Light / あなたは、きっと、誰かの光だ。」と記されたキャンドル(横浜赤レンガ倉庫イベント広場で行われた集火・出立式)

●出立(式) :各所で採火された火を各道府県が開催都市東京へ送り出すセレモニー等を実施

そして、パラリンピック聖火リレー全体の流れとしては、日本各地で「採火」された火は、各地での「出立」を経て開催都市東京に運ばれる。競技開催3県では、「採火」後、県内を聖火リレーでつなぎ、東京へ「出立」。それらの火がパラリンピック発祥の地であるストーク・マンデビル(英国)で採火された火とともに、東京で一つとなり(集火)、東京2020パラリンピック聖火が誕生。そして、開催都市東京で聖火リレーが実施されるといったものである。

また、東京2020パラリンピック聖火リレーは、2020年を契機に共生社会を実現すべく、人と人、人と社会との、「新しいパートナーシップ」を考えるきっかけとなることをめざし、原則として「はじめて出会う3人」がチームになってリレーを行うこととされた。

こうした方針を受け、県では、「パラリンピックへの関心を高め、県民の参加機運を向上させるため、『パラリンピック聖火フェスティバル』をオール神奈川で実施するとともに、共生社会推進に向けた県の姿勢をアピールし、『ともに生きる社会かながわ憲章』への理解を深める」といった実施コンセプトの下「パラリンピック聖火フェスティバル」の内容を検討した。

そして、各市町村の理解と協力の下、2019年11月22日には、「ともに生きる社会かながわ」の実現に向けた県民総ぐるみの思いをパラリンピック聖火に込めるため、全市町村で「採火式」を行ったうえで、全市町村の火を一つに集火し、東京へと出立させる「集火・出立式」を実施することを記者発表した。

さらに、2020年2月に「採火式」と「集火・出立式」の日程を発表したが、2020年3月24日に大会の1年延期が決定、「パラリンピック聖火フェスティバル」も1年先送りとなった。

コロナ収束が見通せない中で 迎えた聖火フェスティバル

大会の1年延期決定後、組織委員会からパラリンピック聖火リレーの実施概要について示されたのは、オリンピック聖火リレーの実施概要の発表と同日の、2020年9月28日であった。その主な内容として、実施日を従前のスケジュールの1日前倒し(曜日は

同じ)とするほかは、ほぼ従前どおりであった。

この発表では、あわせて、2020年9月25日にIOC調整委員会会議において合意された、延期後の大会簡素化に向けた見直し方針に基づき、聖火リレー列車両の削減、リレー実施3県における出立式及び東京で実施されるセレブレーションの装飾や機材の見直しなどの簡素化が図られること、感染症対策については、安全・安心なリレーの実施に向けて検討していることも触れられていた。

これを受け、県としても同日付けで新たな「パラリンピック聖火フェスティバル」の実施日を発表した。

延期後の日程は決まったものの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で人流の抑制が求められる中、すべての市町村の火を一つにして、送り出すという「県民総ぐるみ」の取組をどのように実現していくのが課題であった。特に、採火式会場には、多くの方々に集まっていたいただき、様々なイベントの実施を予定していた市町村も多くあったが、こうした計画も見直さざるを得ない状況となり、具体的な実施方法を巡り模索が続いた。

2021年を迎え、引き続き新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、3月31日に延期後の本県における「パラリンピック聖火フェスティバル」の概要を公表した。

内容としては、

●伝統のお祭り等のイベントで採取した種火を活用した採火や、太陽光から起こした火やキャンドルの火からの採火など地域の特色を生かした「採火式」を全市町村において実施する

●採火された火はランタンへ納められ、「集火・出立式」へ送る

といったもので、あわせて、その時点における各市町村の採火や県の集火・出立式の日程、会場、内容を公表した。

コロナ禍のため、「開催に当たっては、感染症対策として、会場での三密対策、会場の消毒、来場者への検温などを実施するほか、オンライン配信や事前予約制の導入なども検討していく」といった条件を付した形での発表となった。

この発表の際に示した、各市町村の採火予定の中で、相模原市は、2016年7月26日に多くの尊い命が失われた、障害者支援施設県立「津久井やまゆり



1 神奈川県のパラリンピック聖火フェスティバルのチラシのイラストは、県内の認定NPO法人「アール・ド・ヴィーヴル」が制作 2 集火・出立式の出立者となった、リオ2016パラリンピックの車いすテニスダブルスで4位の二條実穂氏も登壇 3 ピアニストでかながわSDGsスマイル大使の西川悟平氏によるピアノ演奏が行われた

園」において、「やまゆり園関係者や市民等が共にささえあい生きる社会の実現を願いながら相模原市の火を作る」との内容が記載されていたが、そのことが公表前の2021年3月23日にテレビや新聞等で報道されると、採火場所としてふさわしくないとして、多くの反対意見が寄せられる事態となった。

こうした状況を踏まえ、本村相模原市長は2021年4月20日の記者会見で、採火の実施場所の変更も含めて、総合的に検討する方針を明らかにし、さらに2021年5月7日に採火場所の変更を発表した。

無観客・オンライン配信でのイベントを開催

県内の全市町村と県で採火された火を一つに集め「ともに生きる社会かながわの火」とし、開催都市東京へ出立する集火・出立式を2021年8月15日に横浜赤レンガ倉庫で開催した。当初の計画では、多くの県民の方々に直接会場に足を運んで集火・出立の様子をご覧いただくとともに、各市町村の代表者が採火した火を持って会場に集まり、皆で集火を行う企画も検討していた。しかし、人を集めてのイベントが難しい状況であったことから、無観客での開催とし、会場の様子はオンライン配信するとともに映像をアーカイブで残し、後からでも見られるようにした。

当日会場には、各市町村で採火された火をランタンに納め、「県の火」とともに会場前方に置かれた展示台に飾った(p.23 [3])。なお、「県の火」については、(一社)江の島ヨットクラブに所属する未来を担うジ

ュニアセーラーに、県ゆかりのパラリンピック代表選手に向けて書いていただいた応援メッセージカードで装飾したキャンドルの火から、江の島のセーリング競技開催記念モニュメントの前で県セーリング課職員が採火し、「県の火」としてランタンに納め、会場に持ち込んだ。

また、その周りには、(学)神奈川大学、(学)岩崎学園、日本航空株式会社、東京ガス株式会社のほか、かながわSDGsパートナー企業などの約800人の方々に書いていただいたパラリンピック選手に向けた応援メッセージや、大切な人への感謝の気持ちを込めたメッセージを添えたLEDキャンドルを並べた。多数の火が揺れて灯る光景は、「パラリンピックを応援するすべての人の熱意が集まることで聖火を生み出す」というパラリンピックの理念にふさわしいものとなった(p.109)。

イベントの第1部はスペシャルトークショーとして、リオ2016大会のパラリンピック競技・車いすラグビーで日本初の銅メダルを獲得した山口貴久氏と、同大会の車いすテニスダブルスで4位に入賞し、今回、集火・出立式の出立者となる二條実穂氏が登壇。パラスポーツの魅力や選手のパフォーマンスの素晴らしさをたっぷりと伝えていただくとともに、パラリンピックで注目する選手や種目について、熱いメールも交えて語っていただいた。

第2部ではタレントの高橋みなみ氏、ピアニストの西川悟平氏と黒岩知事が加わり、パラリンピック聖火リレーのコンセプトである「Share Your Light / あなたは、きっと、誰かの光だ。」をトークテーマに

語っていただいた。

知事は、「きっとあなたは、誰かの光だ。逆に言うと、光になっていない人は誰もいないということ。それは非常にみんなを勇気付ける」とコメントした。

さらにピアニストである西川悟平氏がピアノLIVE演奏を披露。西川氏は、15歳からピアノを始め、25歳でアメリカデビューし、成功を収めた。その後、ジストニアという難病に侵されながらも、懸命なりハビリの末、7本指で再起を果たした奇跡の音楽家である。

会場では、映画「アラジン」より「A Whole New World」、「きらきら星」の2曲を演奏した。この「きらきら星」は、西川氏が「動く指だけで音を奏でていこう」と決めたきっかけとなった曲とのこと。西川氏は、9月5日のパラリンピック閉会式に出演され、素晴らしいピアノ演奏を披露された。

このほか、イベントの中では、今大会に出場する県ゆかりのパラリンピアンの方々から頂いたメッセージ動画を放映した。

全市町村と県の火を集めて 「ともに生きる社会かながわの火」に

イベントの最後を飾るのは、集火・出立式。県を代表する集火者として、高橋みなみ氏、山口貴久氏、西川悟平氏、黒岩知事、小島健一県議会議長の5人がそれぞれのトーチに灯った県内の全市町村と県の火をステージ中央の集火台に灯し、一つに集め、「ともに生きる社会かながわの火」とした(p.23⑮)。

集火ののち、会場では司会者が代表して「ともに生きる社会かながわ憲章」を朗読し、この憲章に込められている思いを改めて皆で共有した。

「ともに生きる社会かながわの火」は、出立者である二條実穂氏の持つパラリンピックトーチに灯され、東京へ出立した(p.23⑭)。無観客・オンライン配信でのイベントとなったが、終了後のアーカイブ配信も含め、映像の視聴回数は、3,000回を超えた。

東京での聖火リレーも公道走行中止 小石昌矢氏が点火セレモニーへ

都内で行われるパラリンピック聖火リレーの県代表ランナーは、若手パラアスリートの高校3年生・

小石昌矢氏にお願いした。

横浜市立横浜総合高校に通う小石氏は、生まれつき両太ももと右腕に障がいがある。小学6年生から、国内最高峰の「ジャパンパラ水泳競技大会」に出場。2015年に金メダルを獲得したパラアスリートである。

小石氏は、東京都内での聖火リレー3日目となる8月22日に、日野市を走行する予定だった。しかし、緊急事態宣言の延長を受け、都内での公道走行は中止となり、国分寺市の点火セレモニー会場(国分寺市新庁舎建設予定地)で関係者のみによる点火セレモニーが実施された。小石氏は、その日に初めて会ったほかの2人のランナーとともに聖火をつなぎ、県代表ランナーとしての大役を務めていただいた(p.23⑯)。

セレモニー終了後、「今日は、パラリンピックの選手に向けて思いを託そうという気持ちでここに来た。今日初対面の3人であったが、チームワークで聖火を運べて良かったと思う」と笑顔でインタビューに答えていた。

かながわ 県 のたより
8 月号 No.797

もう一つの聖火に
おも
思いをのせて。

東京2020
パラリンピック
聖火リレー

父、一さんからのエール
これからの自分の好きをこら
いっしょに挑戦してほしい。

小さい頃からずっと憧れていた
パラリンピックに、聖火リレーとして
参加できることに、うれしくて
涙が止まらなくて泣いていました。
人々の夢や希望をこら、と祈りながら
聖火リレーをしたいです。

8月12日から、パラリンピック聖火リレーが
始まります。コンセプトは、「Share Your
Light—あなたは、きっと、誰かの光だ。」これは、
社会の中で誰かの希望や支えとなっている多
様な人(人)が集まり、出会うことで、共生社会を
開拓する力としよう、という思いを表現しています。

パラリンピックとは自身の運動機能の限界を
知り、どうすれば残された機能を最大限に活かす
ことができるかを徹底的に追求してきた人々です。
困難にならば、個人努力もありますが、誰しも運動
機能は衰えます。そこで、高齢者はパラリンピック
からたくさん学ぶことができるはずなの
です。

また、年齢や障がいなどを越えてスポーツをす
る喜びや、仲間ができる楽しさを実感できるパラ
スポーツは、心身をより健康な状態にしてい
く「未来の改造」にもつながります。

そうした思いを込めて、県では、2015年に「かな
がわパラスポーツ推進宣言」を発表しました。
今後とも県は、パラリンピックを契機として、パラ
スポーツをより「普及させること」によって、未来
の改造や共生社会の実現へつなげてまいります。

村上市知事 黒岩祐治

パラリンピック聖火リレー—神奈川県代表選手—
小石昌矢さん (横浜国立大学附属横浜高等学校3年)

生まれつき両太ももと、右腕の二の腕から先がない(三肢関節
の障がい)がある。小学6年生から競技の場に出、一線一線、
ともに努力を重ね、小学6年生から参加した第1回ジャパン
パラ水泳競技大会に出場。2015年大会では100m甲子まで
金、50m甲子まで銀メダルを獲得。今年大会の開幕から1日
間待たれる選手。8月22日に都内を走行予定。

パラリンピック聖火フェスティバル
東京都内を8月21日(土)に聖火リレーの
火のついでに実施するフェスティバル。
▶ 神奈川県の大変な道
日時：8月15日(日)18時30分~20時(予定)
会場：東京都庁大ホール(東京都千代田区千代田)※要予約(要観覧券)で参加します。
▶ 県立野村の祭典
県立野村町で地域の特色を活かした「聖火式」が行われます。
日時：8月12日~15日(土)14時~16時に開催

競技開催都県を聖火が通ります
開催都県：東京都(22区) 会場：神奈川、千葉、埼玉、東京

神奈川県ゆかりの選手を応援しよう!
500名以上参加の「からんぼ」を付けて選手に感謝の
気持ちを贈ろう!

選手プロフィールはこちら
選手プロフィールはこちら

東京2020パラリンピック競技大会
開催期間：8月24日~9月5日(22競技)

県民の人口と世帯
県民総人口(推定) 9,246,429人 世帯数 4,588,428世帯
県民の平均年齢(推定) 46.2歳 県民の平均収入(推定) 4,656,001円 県民の平均年収(推定) 24,267万円
県民の平均所得(推定) 4,259,532円

県民の平均所得(推定) 4,259,532円
県民の平均年収(推定) 24,267万円
県民の平均収入(推定) 4,656,001円
県民の平均年齢(推定) 46.2歳
県民総人口(推定) 9,246,429人
世帯数 4,588,428世帯

県民の平均所得(推定) 4,259,532円
県民の平均年収(推定) 24,267万円
県民の平均収入(推定) 4,656,001円
県民の平均年齢(推定) 46.2歳
県民総人口(推定) 9,246,429人
世帯数 4,588,428世帯

県代表の聖火ランナーを務めた、若手パラアスリートの小石昌矢氏が表紙を飾った「県のたより」2021年8月号

県内の採火一覧

自治体名	日程	会場	内容
神奈川県	8月15日	江の島弁天橋北側入口	セーリング競技開催記念モニュメント前で採火した。
横浜市	8月13日	開港広場公園前	日米和親条約締結の地「開港広場公園」前にて、日本の近代化の象徴であるガス灯から採火した。
川崎市	8月14日	等々力緑地内	市内7区のそれぞれの地域性を生かした火を各区の代表者が持ち寄り、「かわさきの火」として集火し、その後、採火した。
相模原市	8月15日	相模原市役所	大雨のため採火式は中止。市職員が共生社会の実現を願いながら採火し「共にささえあい生きる社会さがみはらの火」として県の集火・出立式へと送り出した。
横須賀市	8月15日	横須賀市役所1号館市民ホール	障がい者のスポーツ大会に出場する市民で火を起こし、その火を集めて採火した。
平塚市	8月14日	平塚市総合公園 野外ステージ	平和や共生社会の実現を祈念した灯ろうの火から、市内の障がい者就労支援等を行う団体の方が採火した。
鎌倉市	8月14日	大船観音寺	平和と共生社会実現への思いを込めて、大船観音寺に灯り続ける平和を願う火から採火した。
藤沢市	8月15日	藤沢市役所分庁舎	藤沢市役所分庁舎前にある「平和の灯」モニュメントから採火した。
小田原市	8月14日	小田原城址公園	小田原城址公園において、官民連携組織・小田原市ラグビー・オリパラ活性化委員会関係者や障がい者らが、小田原提灯の火から採火した。
茅ヶ崎市	8月13日	県立茅ヶ崎養護学校	県立茅ヶ崎養護学校にてソーラークッカーを用いて採火し、ランタンに点火した。
逗子市	8月13日	逗子市役所	高校生がろうそくから火をとり、市の代表者とともに、採火した。
三浦市	8月13日	潮風スポーツ公園	市内の障害福祉サービス事業所で作製したろうそくランタンの火を各事業所の障がい者が市長とともに採火した。
秦野市	8月14日	秦野市役所	秦野市役所本庁舎前にある「秦野市平和の灯(ともしび)」モニュメントの火を種火とし市長が採火した。
厚木市	8月13日	厚木市役所	ソーラークッカーを用いて太陽光から起こした火を、採火した。
大和市	8月13日	大和スポーツセンター競技場	大和市イベントキャラクターの「ヤマトン」と「ハートン」が立ち会い、採火台の火から採火し、ランタンに点火した。
伊勢原市	8月15日	伊勢原市民文化会館	事前に各障がい者施設で採取した火を代表者が持ち寄り、一般公募の小中学生がまいぎり式火起こして採取した火と一つの火に集火した。
海老名市	8月14日	海老名市立わかば会館	市内2か所の障がい者施設でそれぞれ火起こし体験などで採取した火を集火し、「ともに認め合うまち・海老名の火」とした。
座間市	8月13日	座間市役所ふれあい広場	座間市役所ふれあい広場にて、太陽光から起こした火により採火する予定だったが、雨天のためマッチにより採火した。
南足柄市	8月13日	大雄山最乗寺	大雄山最乗寺にて御真殿の火を用いて、採火した。
綾瀬市	8月15日	綾瀬市役所敷地内シンボル広場	昔ながらのまいぎり式火起こして着火し、点火棒で採火し、ランタンに保管した。
葉山町	8月13日	葉山町役場正面玄関前	パラスポーツ選手でもある町職員が、ろうそくから火をとり、ランタンに移すことで採火式とした。
寒川町	8月13日	さむかわ中央公園	様々な願いを込めて町民が作る折鶴を燃やし、願いを昇華するとともに、その火を種火とし、町長が採火した。
大磯町	8月14日	大磯町保健センター	東海道松並木から松ぼっくりを集め、着火したものを種火とし、福祉団体の方が自作したキャンドルで火をつなぎ、最終者の点火棒に着火後、ランタンへ火を点けた。
二宮町	8月13日	東京大学果樹園跡地	障がいスポーツ関係者によるキャンドルで火をつなぎイベントを行い、採火した。
中井町	8月13日	なかい里都まちCAFE	町内の障害福祉サービス提供施設やスポーツ関係団体等が灯した火を、町の代表者等が一つに集め採火した。
大井町	8月13日	大井町保健福祉センター	ろうそくなどの種火から、町の代表者が福祉団体の代表者とともにランタンに火を移した。
松田町	8月12日	松田町生涯学習センター	事前に障がい者通所施設において種火を起こし、会場にて小学生から町代表者へのリレーの後、採火した。
山北町	8月13日	山北町生涯学習センター	毎年開催している町内の祭りにおいて、五穀豊穡・無病息災を願う祭りに使われる火を種火として採取し、その火を町の代表者が採火して、町内の障がい者団体とともに、共生社会への思いを込め、県の集火・出立式へ送り出した。
開成町	8月13日	あしがり郷瀬戸屋敷	「あしがり郷瀬戸屋敷(茅葺屋根の古民家)」主屋の囲炉裏の火から採火した。
箱根町	8月13日	星槎大学箱根キャンパス (旧箱根町立仙石原中学校跡地活用)	町内の祭りの火から種火を採取して保管しておき、種火をもとに採火し、車いすを使用される町民代表が町長に引き渡した。
真鶴町	8月13日	真鶴町役場	真鶴町役場正面玄関前にある町民憲章碑の前で採火し、町長が火を預かった。
湯河原町	8月13日	湯河原町立湯河原小学校	町内の児童と保護者による参加者を募り、地域作業所が制作したキャンドルを活用する火起こしイベントを実施し、起こした火から地域作業所の児童が採火した。
愛川町	8月13日	県立あいかわ公園 風の丘	県立あいかわ公園風の丘にて太陽光から起こした火により採火した(町長及び町職員のみで執り行った)。
清川村	8月15日	清川村役場	カヤやワラ等で制作された龍から種火を採取し、その火を活用して村の代表者が採火した。